

# もりの森の話

第18話  
網走西部森林管理署  
西紋別支署  
杉本 明優

採用二年目の若手職員のコーナーです

昨年4月に北海道森林管理局 技術普及課から網走西部森林管理署 西紋別支署の業務グループへ赴任となりました。業務が変わったことで、最初は戸惑いでしたが、周囲の方々に親切に教えていただき、少しずつ慣れてきました。勉強すべきことは沢山あるので、たくさん吸収し、身につけていきたいと思っています。

## 【森林環境教育について】

網走西部森林管理署 西紋別支署では、「滝上みどりの森林(もり)推進協議会」という役場や地域の事業者の方などが参加する協議会に参加しています。そこでは、森林環境教育の一環として、近隣の小学校の子供たちに木の種類を教えたり森林づくりの学習を行ったりしています。

ある時の授業では、ドングリを「拾い」、「植えて」、「育てて」もらうところまでを行いました。

ドングリはブナ科の木(ミスナラなど)からとれ



ドングリを水につける様子

ます。年によって豊作・凶作の周期があり、そういうところにも気を配って事前の準備が必要なのだ勉強になりました。

ドングリは子供たちにとっては身近な存在で、親しみやすさもあって、好評であっという間に集めてもらうことができました。植栽体験をきっかけに、自然や林業に少しでも興味を持ってもらえればと思います。

私は、また新人ですが、知識をつけて自然の楽しいところを子供たちに自信を持って教えられるようになりたいと思っています。

## 【海岸防風保安林について】

西紋別支署管内には、「紋別海岸防風保安林」という海岸林があります。その森林は、海岸から吹く強い潮風から、国道や住宅街、公園など多くの人が利用する場所を守る役割を果たしています。

しかし、海岸に植えた木々は常に潮風に当てられるため、海側から徐々に弱り枯れていってしまいます。

また、紋別海岸の土壌は粘土質で通水性が悪く、生育の難しい場所のため、木を育てるにはいくつかの対策を立てる必要があります。

これまで紋別の海岸林では、かつて農耕地の開拓などによって未立木地となっていました。昭和33年頃より森林の造成を行ってきました。主な植栽木としては「アカエゾマツ」が選ばれています。初期成長こそ悪いものの、寒さと塩分に耐える粘り強い樹種のようなです。私が実際に成長調査を行った際には、前年



防風柵の作設

のデータでは「枯れ」の扱っていたにもかかわらず復活している個体もあり、たくましさを感じました。

樹種の選定の他にも、土の改良や密植、防風柵の設置など多くの工夫がされています。

海岸林の造成を通して、海岸に木を植えることの難しさを知るとともに、木が育ってくれることの喜びを実感しました。今後も、海岸林では、方法を少しずつ改良しながら森林の再生と長寿命化を目指し、植栽や本数調整伐を行っていくなど、よく考えて仕事に関わっていききたいと思っています。

植栽木が順調に育ってくれることを願います。